



の「能格」的表現、動詞の「方向」接頭辞、動詞句の人称接尾辞といった特色を適切に把握され、各所で説明を加えられていることから確認できる。西夏語資料に初見の読者も、この訳文を一読するならば、西夏語の語法・文法的一端を知ることができよう。

諸本の関係がややわかりにくいこと、諸本の対応として例示した部分の妥当性など、今後に課題を残す恨みなしとしないが、今後の漢語文献・西夏語文献研究に資するところ大であることは疑いない論考である。

#### 図版

俄羅斯科学院東方研究所聖彼得堡分所，中国社会科学院民族研究所，上海古籍出版社編

1999 『俄羅斯科学院東方研究所聖彼得堡分所蔵黒水城文献』11（西夏文世俗部分），上海：上海古籍出版社。（pp. 221-332 に西夏文『類林』の写真図版）

#### 主要参考文献・関連文献

Кепинг, К. Б. (Kepping, K. B.)

1983 *Лес категорий*. Наука, Москва. (『類林』, ナウカ, モスクワ)

Невский, Н. А. (Nevsky, N. A., 聶歷山)

1960 *Тангутская филология* 1, 2. Издательство восточной литературы, Москва. (『西夏語文献学』1, 2, 東洋文献出版社, モスクワ)

西田龍雄

1989 「西夏語」『言語学大辞典』中巻，三省堂：408-429

史金波・黄振音・聶鴻音

1993 『類林研究』，寧夏人民出版社，銀川

(荒川慎太郎)